

記帳、記録して経営に活かそう 《その2》

～我が家(個人経営)の経営状況は??～



前(11)月号では、経営分析をするために欠かせない資料の整備について説明をしました。今回は、その資料を活用した経営の把握方法について説明をします。

1 お金の流れを把握しよう

「所得税を支払っているのにお金が残っていない。」といった話題にしばしば遭遇する機会があります。何故そんな感覚になるのでしょうか。それは、所得税を算出する過程で、出入りしている実際の取引以外の額も計算されるからです。

例えば成牛を 500,000 円で購入した場合、損益計算書の経費に 500,000 円が計上されず、減価償却費に約 83,333 円で計上されます。他にも育成増益費(成牛にするために積み立てた資金)など、実際にその年に支払ったお金が考慮されていません。このようにして算出された所得金額を基に所得税が以下の方法で確定されます。

①所得金額を算出⇒損益計算書より

所得金額 = 収入金額 - 経費 - (各種引当金・準備金等 + 青色申告特別控除)

②課税される所得金額を算出⇒〇年分の所得税の確定申告Bより

所得金額 - 所得から差し引かれる金額(例えば、医療費控除や基礎控除など)

③所得税額を算出⇒〇年分の所得税の確定申告Bより

課税される所得金額 × 税率(表1参照) - 控除額

表1 ③の税率

課税される所得金額	税率(%)	控除額
1,000 円 から 1,949,000 円まで	5	0円
1,950,000 円 から 3,299,000 円まで	10	97,500 円
6,950,000 円 から 8,999,000 円まで	20	427,500 円

さらに、借入金がある場合の返済金や成牛や機械の購入費の支払い等も含まれていません。従って、キャッシュフローでお金の流れをつかむ必要があります。

2 お金の管理はキャッシュフローでしょう

下の図を例題にして説明します。

簡易損益計算書

販売金額	1,000,000	
販売計	1,000,000	①
飼料費	200,000	
農具費	50,000	
減価償却費	100,000	
経費小計	350,000	②
育成費用	150,000	③
経費計	200,000	④ = ② - ③
差引金額	800,000	⑤ = ① - ④

図1 簡易損益計算書

キャッシュフローにすると

販売金額	1,000,000	
販売計	1,000,000	⑥
飼料費	200,000	
農具費	50,000	
減価償却費	100,000	⑦
経費小計	250,000	⑧ = ② - ⑦
育成費用	150,000	③
経費計	400,000	⑩ = ⑧ + ③
差引金額	600,000	⑪ = ⑥ - ⑩

図2 キャッシュフロー

期中で支払った現金

購入した牛代	500,000	
返済金	300,000	
計	800,000	⑫

増減したお金	-200,000	⑪ - ⑫
--------	----------	-------

図3 期中で支払った現金

①図1は損益計算書と思って下さい。差引金額は、800,000 円(販売計①—経費計④)です。

②図2は損益計算書をキャッシュフローにした場合です。減価償却費(⑦)は支払っていないお金、育成費用(③)は支払っているお金です。

③図3は年内に支払った牛代と返済金合計が800,000 円(⑫)です。

従って、年内に増減したお金はマイナス200,000 円(⑪—⑫)となります。

仮に、1月1日時点の通帳残高が200,000 円とすると年末の通帳残高は0 円になります。これが、損益計算書と手持ち資金との感覚の違いです。

「入るお金」 > 「出たお金」	経営発展の検討
「入るお金」 = 「出たお金」	現状維持
「入るお金」 < 「出たお金」	倒産の危機

図4 キャッシュフローから見た経営状況

さらに付け加えると、これに生活費(出るお金)を加味する必要があり、11月号でもお伝えしたとおり家計簿の記帳が必要となります。

次回は、引き続き経営分析方法について紹介します。